

聖マリア病院初期臨床研修の修了式開く ～2年間にわたって学ぶ・22人に修了証書～



島弘志院長から修了証書を贈られる研修医

平成21年度の聖マリア病院初期臨床研修の修了式が3月19日、当院の雪の聖母聖堂で行われ、22人の医師・歯科医師に島弘志院長から修了証書が手渡されました。

現在の新初期臨床研修制度は、平成16年度から義務化された研修制度です。国家試験に合格し医師になったばかりの若い医師に、専門に偏らない初期救命救急を含むプライマリ・ケアにかかる基本的な診療・診断能力を身に付けてもらおうと、2年間、総合病院や大学病院などの臨床研修指定病院で研修します。

当院でも制度導入当初から、病院を挙げて研修医を受け入れてきました。今回の修了証書は、平成20年4月から今年3月までの研修医が対象です。当院の医師によるマンツーマン指導を軸に、1年次に内科・外科・救急の研修、2年次に小児科・産婦人科などのほか希望する選択科目の研修を行い、この間、30本を超える症例レポートを提出するなど、プログラムに沿った、きめ細かな研修に取り組んできました。その結果、全員が修了の認定を受けました。



晴れの修了式を迎える研修医の皆さん



あいさつする井手義雄理事長

雪の聖母聖堂での修了式には、研修医のご家族も出席されました。あいさつでは井手義雄理事長が「2年間の研修をばねに頑張ってください。高い理想のもと、患者さんの目線を忘れずに医療に取り組んでほしい」と激励しました。

修了式の後、WHO西太平洋地域事務局の葛西健・感染症対策課長が「今後、海外で活躍が期待される日本人医師」と題して記念講演を行いました。島院長は研修医の皆さんの2年間を振り返り「この日を迎えて、思わずまぶたが熱くなりました」と感慨深げでした。